

令和2年7月豪雨における対応と課題について

令和2年7月豪雨における被害状況

- 1 大雨の概要
 - ・7月6日九州南岸付近に停滞していた梅雨前線が、太平洋高気圧の強まりにより、九州北部付近に北上した。梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、14日にかけて前線の活動が活発な状態が続いた。
 - ・7月6日から14日の総降水量は椿ヶ鼻で1260.5ミリを観測した。日田では823.5ミリを観測し、7月の月降水量の約2.5倍の雨が降った。
 - ・48時間降水量が県内の19観測地点のうち9観測地点で観測史上最高を更新した。
- 2 人的被害 死者5名、行方不明1名、負傷者5名
- 3 建物被害 住家 全壊63棟、半壊181棟、一部損壊326棟、
床上浸水297棟、床下浸水439棟
非住家 204棟
- 4 災害発生情報(最大)

避難指示 (最大)	15, 664世帯	34, 653人
避難勧告 (最大)	30, 079世帯	70, 252人
避難準備・高齢者等避難開始(最大)	187, 263世帯	387, 360人
	420, 635世帯	889, 767人

※ 被害は「『令和2年7月豪雨』に関する災害情報(最終報)」(8月11日15時時点)